

建設機械市場（中古車）の現状

1. 中古車市場動向

国内からの中古車輸出の増加が、更新を主とした国内新車需要の喚起になると想定される点については、Vol.65 No.12の2-(1)「国内市場」の項で触れているが、本項ではその2012年度中古車の流通状況について特徴を記した。

(1) 新車販売台数と中古車発生台数

中古車の発生は下取・買取等で新車販売店に入庫するものと、中古車販売会社買取するものと2通りに大別される。その総発生量と新車販売台数を表したのが、図一「中古車発生・新車販売台数（主要6機種）」である。

なお、主要6機種とは油圧ショベル、ミニショベル、クローラトラクタ、ホイールローダ、クローラクレーン、ラフテレーンクレーンである。

図一の通り、これまでの中古車発生台数は新車販売台数を上

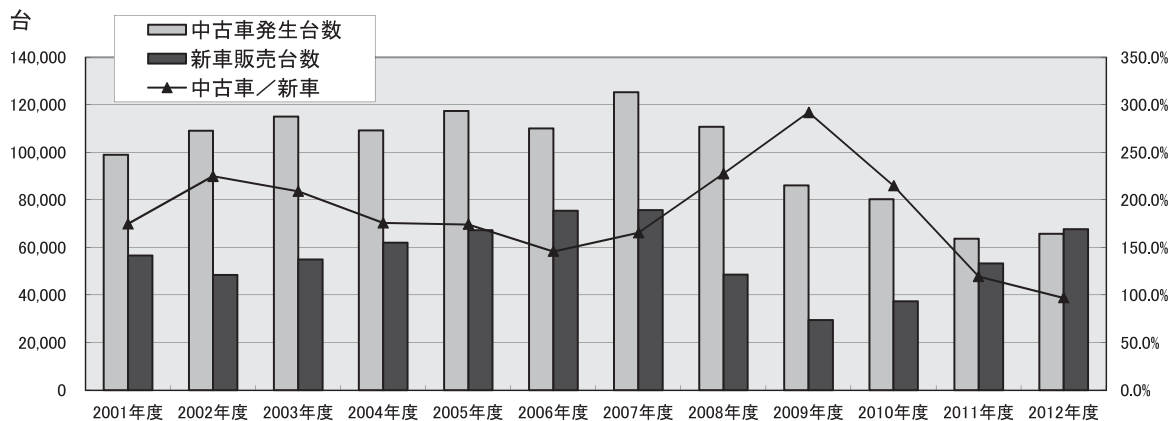
回っている。

2009年度では、新車販売台数の2.9倍と比率では頂点となっており、以降、新車販売台数の増加に伴い比率は減少傾向であった。2012年度の中古車発生台数は微増となっているが、一方の新車販売台数は1万台以上の増加となり、新車販売台数が中古車発生台数を約2000台ほど上回る結果となった。この傾向は、東日本大震災の影響と思われる、しばらく続くと考えられる。(中古車と新車の比率: 0.97倍)

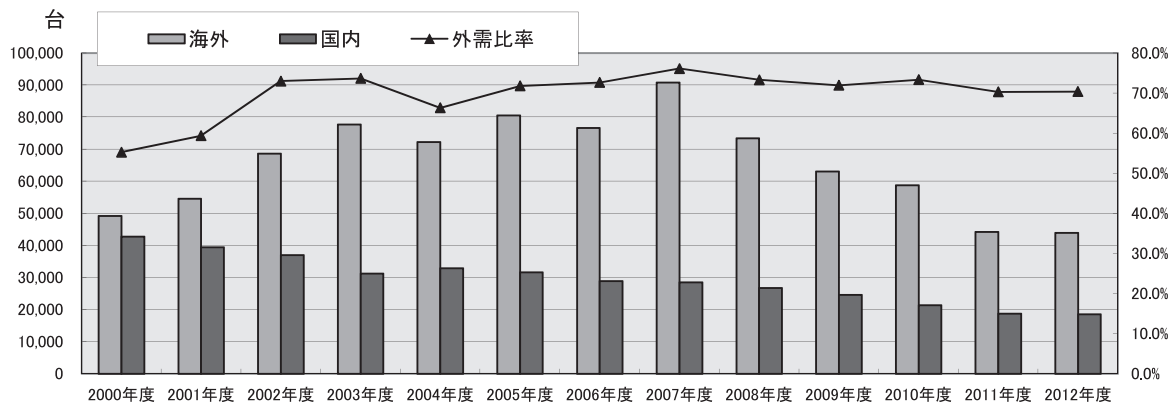
(2) 中古車の需要傾向

発生した中古車は一部（部品取・スクラップ等）を除き、大半が国内または海外（輸出）に販売される。これを国内・海外需要として過去の推移を見ると、図二「中古車需要台数の国内・海外構成（主要6機種）」の通りである。

図二に示す通り2007年度以降は国内需要・海外需要とも年々減少傾向にあったが、2012年度は2011年度とくらべほぼ横バイで

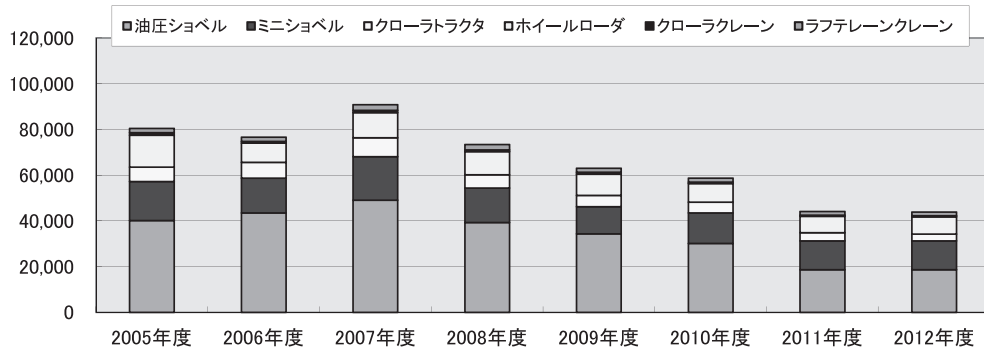


図一 中古車発生・新車販売台数（主要6機種）

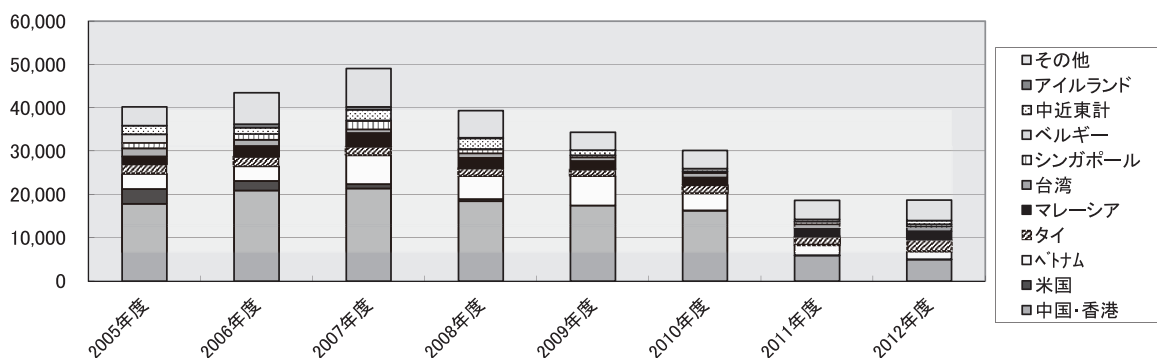


図二 中古車需要台数の国内・海外構成（主要6機種）

統計



図一 3 中古車機種別輸出台数 (主要 6 機種)



図一 4 中古車地域別輸出状況 (油圧ショベル)

あった。

(3) 中古車輸出状況

図一 3「中古車機種別輸出台数」は、2005 年度～2012 年度の中古車機種別輸出状況を示す。2012 年度の機種構成では、油圧ショベルが約 42% で最も多く、ついでミニショベル (29%)、ホイールローダ (17%) の順である。

また、中古油圧ショベルの輸出先を見ると、図一 4「中古車地域別輸出状況 (油圧ショベル)」の通りであり、2012 年度は、「中国・香港」が中古輸出先の全体構成比で 27% と昨年に比べて大幅に減少している。一方、「タイ」は 2011 年度から台数で約 750 台増加し、全体構成比で (14%) と水害対応によるものか 2011 年度にくらべ 4%

の増加となっている。ついで、「マレーシア」(10%)、「ベトナム」(10%) である。

(4) 中古車の販売および現況

中古車の発生台数は 5 年ぶりの微増となった。また、主要 6 機種の中古車需要台数 (国内・海外) は昨年度とくらべほぼ横バイ、2012 年度の海外輸出比率も 70% と 2011 年度とくらべ横バイとなった。2011 年より続く円高傾向により、中古車需要・販売とも昨年度と同様に低迷した。但し、年度末からの円安傾向に、2013 年度は中古車需要台数等の回復が期待される。

出典：(一社) 日本建設機械工業会 統計資料
(文責：鈴木)